



## AAP 展示会開催

内閣府認証 NPO 法人アジア・アパレルものづくりネットワーク（略：AAP、代表理事：小島正憲氏（株）小島衣料オーナー）は2月27日～3月2日の4日間、会員企業で高級婦人服 OEM/ODM メーカーである株式会社オーダー・オブ・メリット・プランニング（略：O.M.P. 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-13-7、代表取締役：宮崎 守氏）の本社イベントホールにて、「2018 AAP 展示会」を開催した（後援：独立行政法人 日本貿易振興機構）。

AAP は 2011 年に設立され、構成する会員は繊維関係の海外進出企業が中心。その他に協力会員および特別協賛会員として服飾資材やテキスタイル業者、物流業者などが名を連ね、現在の会員企業数は 56 社。AAP では 2 ヶ月に一度東京で例会（情報交換会）を開くほか、年に一度海外視察を行い、業界全体活性化の後押しをしている。2017 年 7 月には AAP 設立 7 周年の記念事業として、アパレル、商社、小売り、素材、副資材、生産企業等を対象にパネルディスカッション形式でアパレル生産の課題と展望についてのシンポジウムを開催。アジアでのモノ作りに対する関心の高さから、定員 150 名のところ 260 名が来場するなど盛況裡であった。



今回の展示会は 2012 年、2013 年に続いたの 3 回目。シンポジウムと同じく 7 周年の記念事業として開催され、会員企業のうち、小島衣料、サンウエル、サンテイ、第一織物、高間、東海サーモ、プリセット五島、蓑島刺繍、湯峰ソーイング、レナンミツアキ、ロックス（50 音順）の 11 社が出展。

「メイド バイ ジャパン」をキーワードに、バ

ングラデシュ、ミャンマー、ラオス、カンボジア、ベトナムなどアジア各国に広がる会員企業の海外工場で生産された日本品質の製品や、テキスタイル業者が調達している ASEAN 素材などが展示された。婦人服では、レナンミツアキがベトナムで縫製したアルパカコートを表示し、ASEAN でもデリケートな素材の縫製ができる生産能力の高さをアピール。小島衣料はバングラデシュ生産のシームテープを使用したトレンチコートを、湯峰ソーイングはベトナム生産のシームレスの防寒着を、ロックスはカンボジア生産の婦人カジュアルをそれぞれ展示した。紳士服では、サンテイがスーツとカジュアルラインを、高間はセミオーダースーツのシステムを紹介した。また、サンウエルの ASEAN 生地プリセット五島がプリーツ加工し、O.M.P. で縫製を担当したスカートやコート、第一織物の生地を使用し湯峰ソーイングで縫製したダウンウェアなども展示され、会員同士のコラボレーションといった新たな取り組みも発信された。

